

複合的資源管理型漁業促進対策事業調査

底曳網漁業改善調査

(抄録)

藤川 義一

はじめに

産卵親魚や稚魚、非（未）利用魚の保護期間及び保護区域の設定等に必要な基礎資料を得ることを目的に、小型底曳網漁業における操業実態及び漁獲物の構成を時期別、海区別に調査した。

結 果

操業回数分布

操業は1、2月に少なく、4、12月に多かった。

水深70～100mと水深250～350m付近で多かった。

2、3、12月には塩釜から小川原沖で、4、5月には八戸沖で、3～5月には尻屋沖で多かった。

主要魚種のCPUE分布

1 マダラ

漁獲量は9～12月に多く、2～5月には少なかった。CPUEは水深200m以深で高く、9～11月に八戸市沖で高かった。

2 スケトウダラ

漁獲量は10～12月に多く、2～5月には少なかった。CPUEは水深180～280mで高く、10月に八戸沖で、11月には三川目から白糠沖で、12月には階上沖で高かった。

3 ヒラメ

漁獲量は1997年12月には特異的に多く、6月には最も少なかった。CPUEは5月には塩釜沖で、10月には泊沖で、また、12月には高瀬川、八戸沖で高かった。

CPUE 漁獲金額分布

時期によっては単価の高い魚種が特定の場所で多く漁獲されたことから、漁獲金額の高い海区が認められた。